

● 最近の県内経済

基調判断

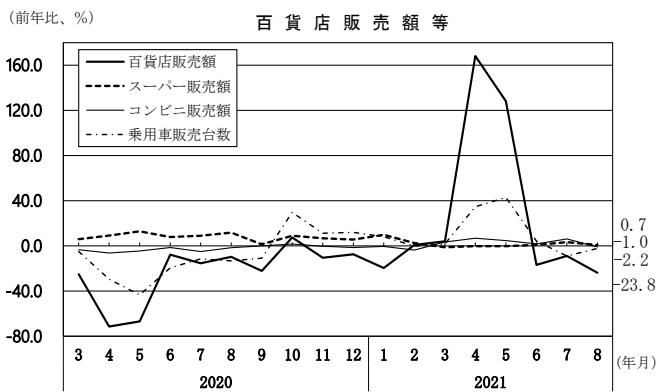
(2021年8月を中心として)



今月の概要

県内景気は、持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられるなど、依然として厳しい状況にある。

1 個人消費 持ち直しの動きが続いているものの、一部に弱さがみられる



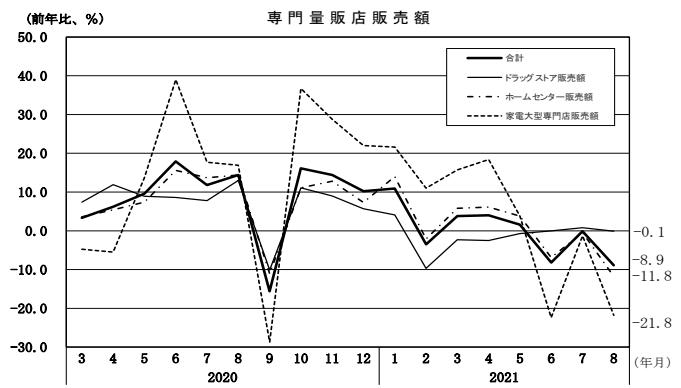
(資料) 経済産業省、埼玉県自動車販売協会など

個人消費は、2021年入り後、持ち直しの動きが続いているが、8-9月は、緊急事態宣言を受けて、飲食・サービス・イベント関連を中心に低迷したとみられる。

8月の百貨店およびスーパーの販売額（店舗調整前）は、百貨店が91億円で前年比23.8%減（3か月連続の減少）、スーパーは1,012億円で同0.7%増（3か月連続の増加）となった。一方、コンビニ販売は554億円で同1.0%減と、6か月ぶりの減少となった。

乗用車販売は、前年比2.2%減と2か月連続の減少となった。内訳をみると、普通車（同5.9%増）は11か月連続の増加となったものの、小型車（同6.6%減）、軽乗用車（同6.6%減）は、ともに3か月連続の減少となった。

スーパーやコンビニにおいては、引き続き巣ごもり需要が堅調に推移した一方で、天候不良の影響による生鮮品の高騰、買物頻度の低下などの影響を受けた。

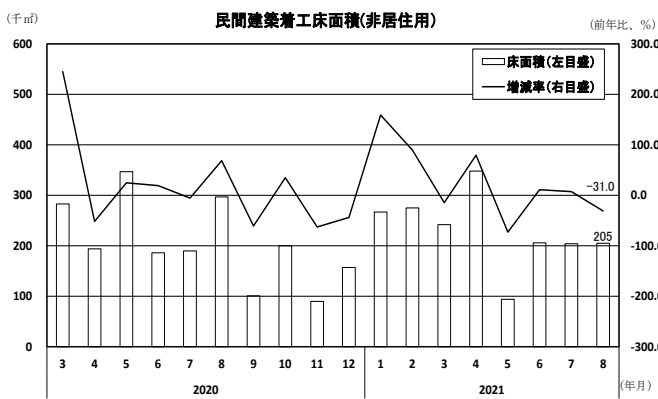


(資料) 経済産業省

8月の専門量販店販売額は、751億円で前年比8.9%減となった。内訳をみると家電大型専門店が177億円で同21.8%減（3か月連続の減少）、ドラッグストアが395億円で同0.1%減（3か月ぶりの減少）ホームセンターが178億円で同11.8%減（3か月連続の減少）となった。

関東1都6県の消費者態度指数（原数値）は、7月〈37.3〉、8月〈36.5〉、9月〈38.5〉で推移している。

2 設備投資 持ち直しの動きがみられる

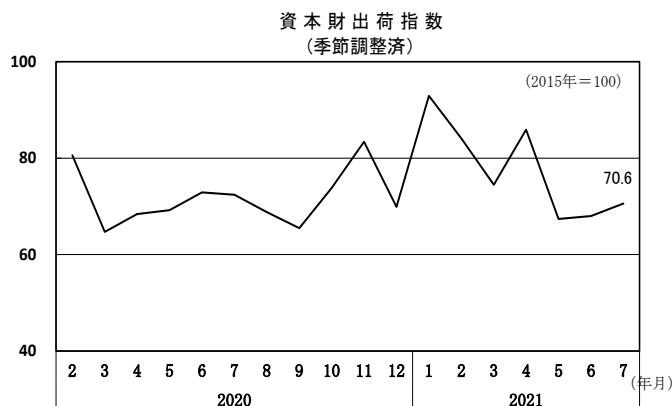


(資料)国土交通省

米国、中国などの景気拡大を受けた輸出の増加や、旺盛な半導体関連需要を受けて、製造業で投資意欲が活性化しているほか、昨年コロナ禍で見送りの案件の実行も幅広い業種で見られる。

8月の民間建築着工床面積(非居住用)は、205千㎡で前年比31.0%減となった(5か月後方移動平均では前年比12.9%減)。

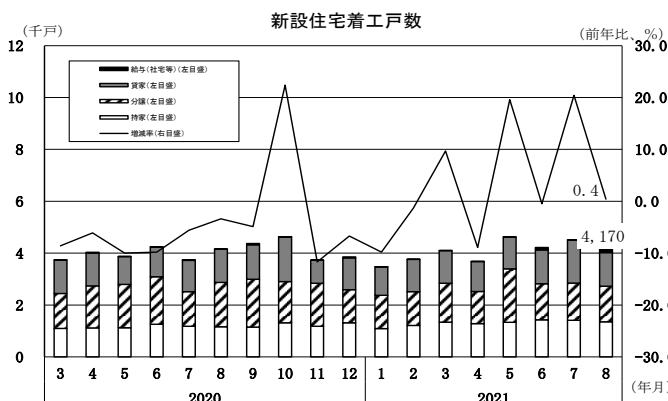
用途別にみると、事務所、工場及び作業場は増加したものの、店舗、倉庫、学校の校舎、病院・診療所はいずれも減少した。



(資料)埼玉県

7月の資本財出荷指数(季節調整済)は70.6で、前月比3.8%増と2か月連続の増加となった(5か月後方移動平均では、前年比2.7%減)。

3 住宅建設 持ち直している

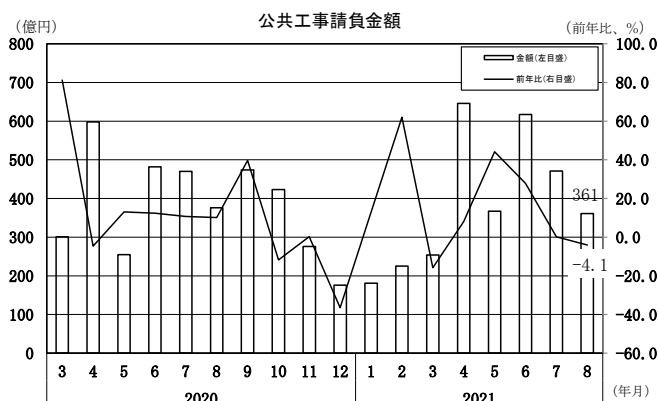


(資料)国土交通省

コロナ禍で低調だった昨年の反動増に加え、郊外で広い家を求める動きもあって、本年入り後持ち直している。

8月の新設住宅着工戸数は、4,170戸で前年比0.4%増と2か月連続の増加となった(5か月後方移動平均では、5.8%増)。利用関係別にみると、分譲マンション(202戸)が同73.2%減となったものの、持家(1,355戸)が同16.7%増、貸家(1,296戸)が同1.4%増、分譲一戸建(1,162戸)が同22.7%増となった。

4 公共工事 増加基調

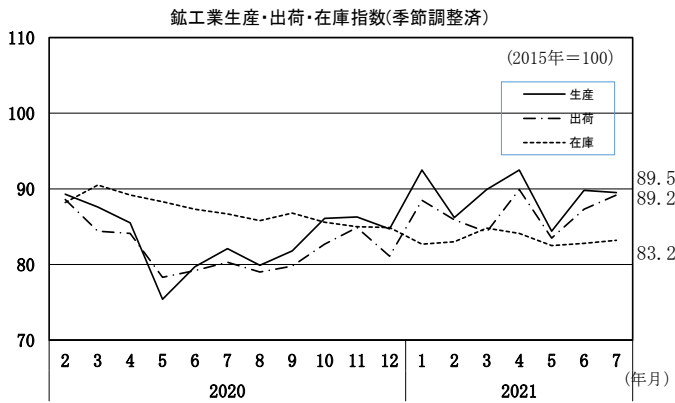


(資料)東日本建設業保証株式会社

政府の2020年度補正予算における公共事業関係費の大幅上積みなどを受けて、増加基調にある。

8月の公共工事請負額は、361億円で前年比4.1%減となった(5か月後方移動平均では前年比12.9%増)。発注者別でみると、国、都道府県、地方公社は増加したものの、独立行政法人等、市区町村はいずれも減少した。

5 生産活動 持ち直し基調にある



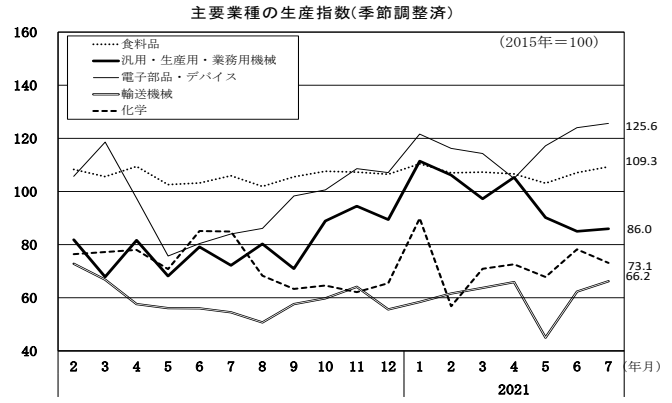
(資料) 埼玉県

米国、中国などの景気拡大を受けた輸出の増加や旺盛な半導体関連需要を受けて、本年入り後は持ち直し基調にある。

7月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、89.5で前月比0.3%低下(2か月ぶりの低下)。輸送機械(自動車エンジン、乗用車)、汎用機械(空気圧機器、圧縮機)などが上昇したが、業務用機械(医療用機械器具、パチンコ)、化学(医薬品、ウレタンフォーム)などが低下した。

出荷指数(同)は、89.2で同2.2%上昇(2か月連続の上昇)。業務用機械(医療用機械器具、パチンコ)、パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙、特殊印刷用紙)などが低下したが、生産用機械(半導体製造装置、包装・荷造機械)、汎用機械(空気圧機器、圧縮機)などが上昇した。

在庫指数(同)は、83.2で同0.5%上昇した(2か月連続の上昇)。繊維(織物製繊維製品、ふとん)、プラスチック製品(プラスチック製容器、発砲プラスチック製品)などが低下したが、輸送機械(乗用車、普通トラック)、パルプ・紙・紙加工品(段ボール原紙、特殊印刷用紙)などが上昇した。



(資料) 埼玉県

◆ 食料品の生産指数(季節調整済)は、109.3で前月比2.1%上昇し、2か月連続の上昇となった。

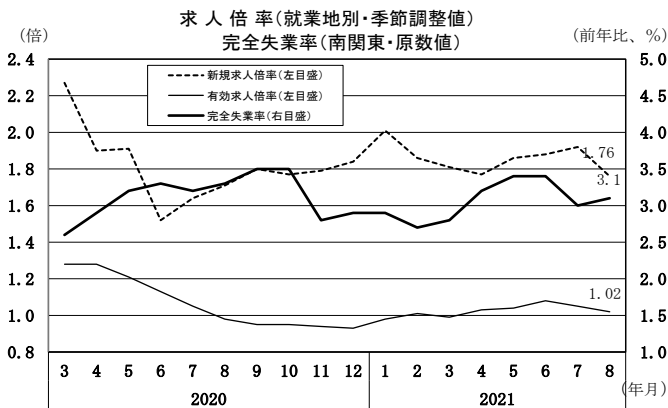
◆ 汎用・生産用・業務用機械(同)は、86.0で同1.2%上昇し、3か月ぶりの上昇となった。

◆ 電子部品・デバイス(同)は、125.6で同1.3%上昇し、3か月連続の上昇となった。

◆ 輸送機械(同)は、66.2で同6.3%上昇し、2か月連続の上昇となった。

◆ 化学(同)は、73.1で同6.5%低下し、2か月ぶりの低下となった。

6 雇用情勢 弱い動き



(資料)厚生労働省、総務省

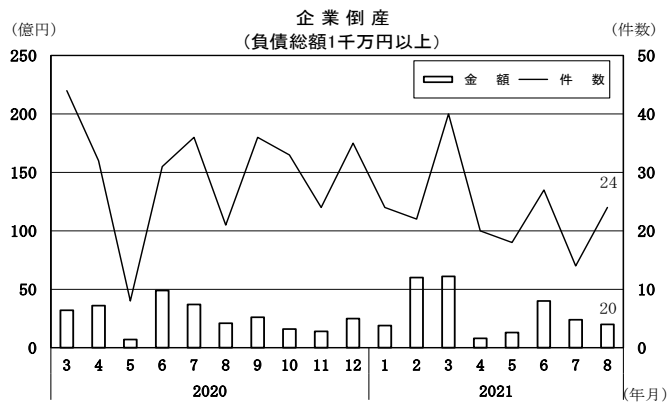
昨年のコロナ感染拡大に伴い、対面型サービスを中心に経済活動が抑制された影響から、弱い動きが続いている。

8月の有効求人倍率(就業地別、季節調整済)は、1.02倍で前月比0.03㊦低下した(2か月連続の低下)。また、新規求人倍率(同)は、1.76倍で同比0.16㊦低下した(4か月ぶりの低下)。

完全失業率(南関東、原数値)は、3.1%で前年同月比0.2㊦低下した(前年同月比2か月連続の低下)。

※有効求人倍率、及び新規求人倍率は、受理地別から就業地別(埼玉県内を就業地とする求人数を用いて算出した求人倍率)の季節調整値に変更。

7 企業倒産 一進一退



(資料)帝国データバンク

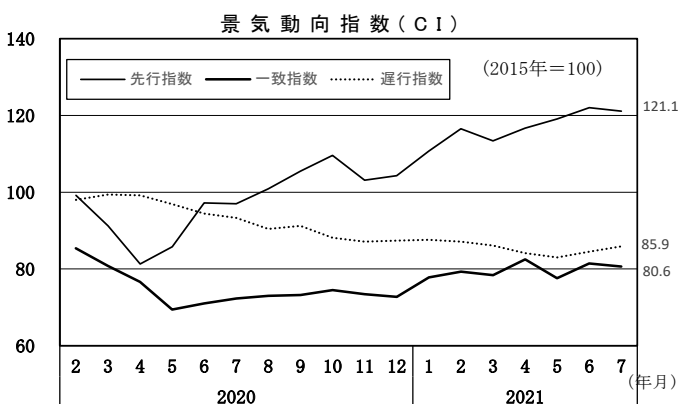
コロナ対策としての政府の資金繰り支援策もあって、低水準で推移している。

8月の企業倒産件数は、24件で前年同月比3件の増加となった。負債総額は20億円で同1億円の減少となった(5か月後方移動平均では、件数は前年比19.5%減、金額は30.0%減)。

業種別にみると、建設業が7件で最も多く、次いでサービス業が6件、製造業、小売業それぞれ4件と続いている。主因別では、販売不振が24件となっている。

<参考>

景気動向指数(CI) 改善を示している



(資料)埼玉県

7月のCI一致指数(景気の現状を示す)は、80.6で前月比0.8㊦低下し、2か月ぶりの低下となった。

CI先行指数(景気の数か月先を示す)は、121.1で同0.9㊦低下し、4か月ぶりの低下となった。

CI遅行指数(景気に遅れて反応する)は、85.9で同1.4㊦上昇し、2か月連続の上昇となった。